

携帯寸割

ケータイسنワリ

取扱説明書

初版 2008年11月11日

二版 2009年 4月 9日

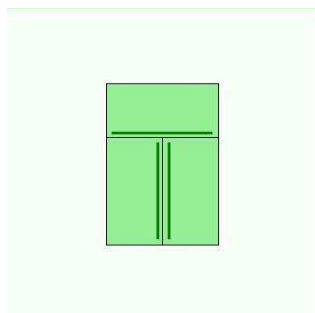
共和システム株式会社

目 次

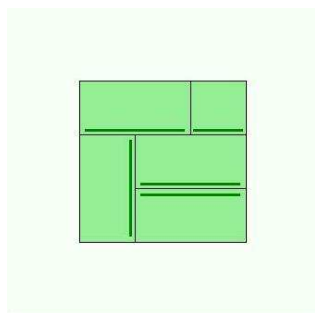
1. はじめに	P. 5
2. ご利用いただく前に	P. 5
3. インストール	P. 6
4. ソフトウェアの起動	P. 7
5. 採寸を行う	P. 8
6. 広間の採寸を行う	P. 16
7. その他の機能	P. 18
8. 採寸データの呼出・参照	P. 22
9. 環境設定	P. 25
10. 困ったときは	P. 32
11. 付録	P. 33

□■携帯寸割 対応部屋リスト

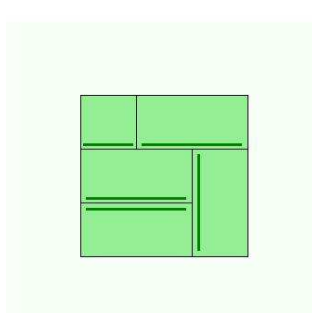
2009年2月現在、本ソフトウェアが対応する部屋の間取りは以下の通りです。



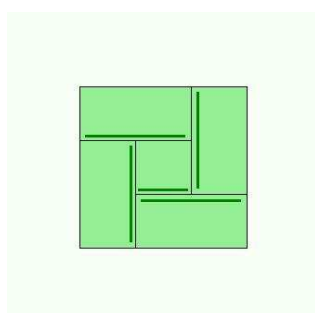
三畳



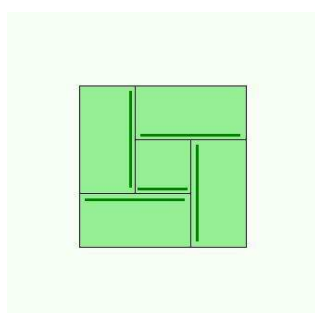
四畳半 (右)



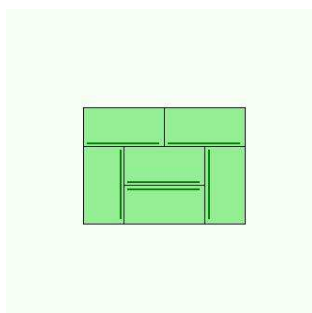
四畳半 (左)



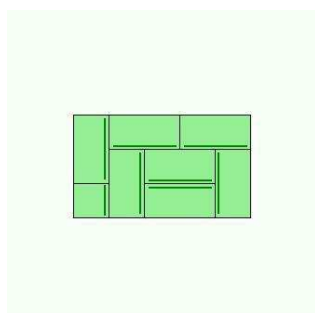
四畳半 (左中)



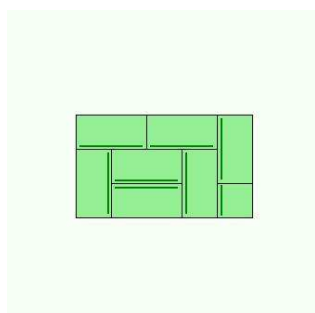
四畳半 (右中)



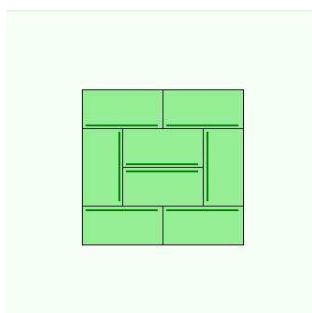
六畳



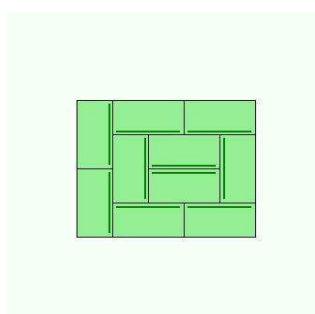
七畳半 (左)



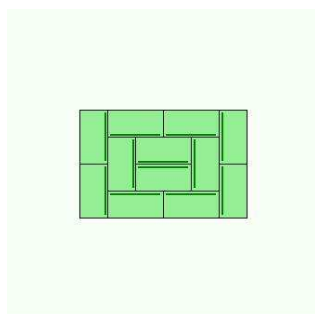
七畳半 (右)



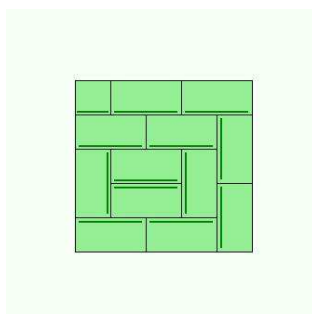
八畳



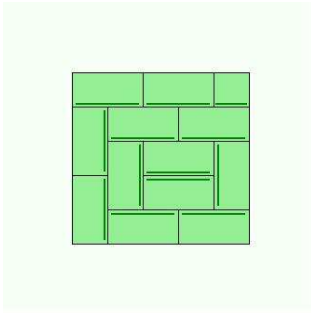
十畳



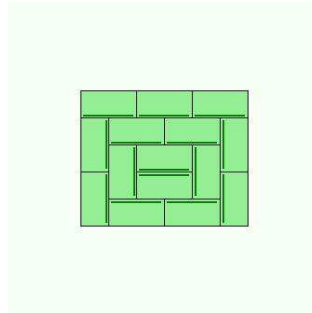
十二畳



十二畳半 (左)



十二畳半（右）



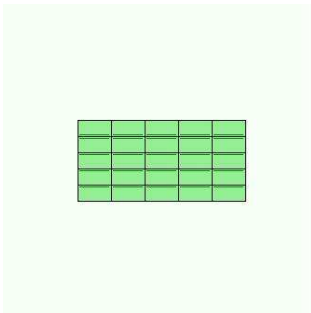
十五畳

■ 広間

広間敷きは、縦横の枚数を指定して作成することができます。

作成可能な広さは、縦横ともに最小1枚、最大5枚です。

採寸条件決定画面にて、部屋の種別を選択の後、縦横の枚数を指定してください。



広間（最大5x5）

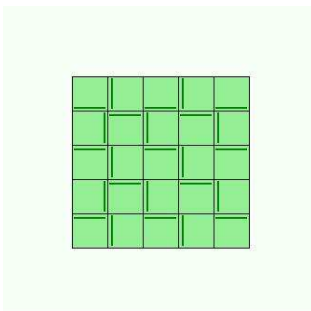
並敷きについては、この広間から横1：縦2のような形で作成することができます。

■ 半畳市松

半畳市松敷きは、縦横の枚数を指定して作成することができます。

作成可能な広さは、縦横ともに最小1枚、最大5枚です。

採寸条件決定画面にて、部屋の種別を選択の後、縦横の枚数を指定してください。



半畳市松（最大5x5）

□ 1. はじめに

本ソフトウェア「携帯寸割（以下本ソフトウェア）」は、Microsoft社販売のWindows Mobile 5以降の互換OSを搭載したPDA端末あるいはスマートフォンを利用して、現場において簡易に部屋の寸法を入力し均等な割付を行うもので、目視による寸法読み取り割り付けも可能ですが、別途説明書のレーザー自動読み取り採寸機を併用することを前提としております。

なお、本ソフトウェアにおいては、以下の用語を頻繁に使用します。

- ・ スタイラス
ペン入力用の棒のことを意味します。
先端が硬すぎないものであれば鉛筆などでも代用できます。
ボールペンや針などの金属製のものは、画面を破壊する恐れがあるので、決して使用しないでください。
- ・ タップ
スタイラスで画面を叩くことを意味します。
ダブルタップであれば、二連続でタップすることを指します。
- ・ ドラッグ
スタイラスで画面を押し、そのままスライドさせることを意味します。

□ 2. ご利用いただく前に

本ソフトウェアを正しくご利用戴くためには、以下の物品が必要となります。

- ・ Windows Mobile 5互換PDA端末

このWindows Mobile 5 互換PDA端末（以下PDA）は、以下の性能を備えている必要があります。

- ・ 240×320以上の解像度のタッチパネルモニタ
- ・ SDカード、或いはMicro SDカードのスロット

なお、PDAのOSがWindows Mobile 6 搭載の場合、これらには「Classic Edition」「Standard Edition」「Professional Edition」の三種が存在します。

本ソフトウェアは「Standard Edition」ではタッチパネルが使用できないため、動作できません。「Classic Edition」または「Professional Edition」の利用をお勧めします。

□3. インストール

本ソフトウェアを使用するには、Windows Mobile 5互換のPDA端末に、インストールソフトウェアを格納した記録媒体（SDカード等）をセットし、インストールを行う必要があります。弊社から予めインストールされているPDAをお求めの方はこの項を読み飛ばしてください。

以下で、その方法について説明します。

なお、本項では、弊社から提供の、本ソフトウェアを格納した記録媒体を、便宜上「メモリカード」と呼称します。

■3-1. .NET Compact Frame Works のインストール

本ソフトウェアをインストールするには、PDAにMicrosoft社の.NET Compact Frame Worksをインストールする必要があります。

これは、メモリカードの【%dNCFW】フォルダに、【NETCFv2.wm.armv4i.cab】という名称のcabファイルがあるので、ファイルエクスプローラなどでメモリカードフォルダを開き、このファイルをタップしてインストールを行います。

その後は、画面の指示に従って、インストールを行ってください。

この作業は、PDAのOSがWindows Mobile 6以降であれば必要ありません。その場合はそのまま3-2に進んでください。

■3-2. 携帯寸割のインストール

電源をONにしたPDAにメモリカードを差し込み、数秒待つと、【KTaiSunwariのインストール】画面が表示されます。

もしこれが表示されない場合、ファイルエクスプローラなどでメモリカード内の【¥install¥KTaiSunwari.cab】ファイルをタップしてください。【KTaiSunwariのインストール】画面が表示されます。

【KTaiSunwariのインストール】画面では、『“KyowaSystem.Co.Ltd KtaiSunwari”をインストールする場所を選択してください』と表示されています。

画面下の【インストール】をタップして、先に進んでください。

ここで、メモリカード側へのインストールの必要があれば、【デバイス】の下に【¥メモリカード】等と表示されているので、そちらの○を選択してから画面下の【インストール】をタップしてください。

以上で、インストールは完了します。完了メッセージが表示されたならば、画面右上の【OK】ボタンをタップして終了してください。

□4. ソフトウェアの起動

この項では、本ソフトウェアの使用方法を説明いたします。

なお、この項では基本的にPDAは縦持ちで、240×320の解像度を持つものを例示致します。横持ちの場合は画面の縦横が切り替わり、若干画面レイアウトが異なります。

本ソフトウェアを起動するには、画面左上のスタートマークをタップすることで表示されるスタートメニューから、【KtaiSunwari】という項目をタップしてください。

すると、初回起動の場合『ショートカットの更新』メッセージが表示され、スタートメニューの項目が【KtaiSunwari】から【携帯寸割】に書き換えられます。次回以降はこの【携帯寸割】項目をタップしてソフトウェアを起動してください。

【KtaiSunwari】或いは【携帯寸割】をタップすると、図1の【メインメニュー画面】が表示されます。

【メインメニュー画面】では、以下の操作が可能です。

- ・新規の部屋を採寸する
- ・過去に採寸した部屋を表示する
- ・環境設定を変更する
- ・ソフトウェアを終了する

以下では、目的別にソフトウェアの動作を解説いたします。

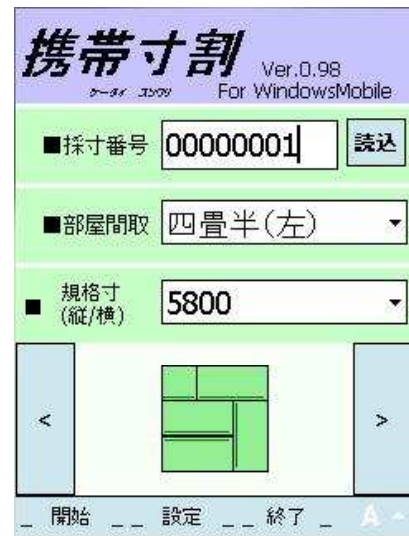


図1 メインメニュー

□5. 採寸を行う

この項目では、部屋の寸法の採寸と割付を行い、そのデータを保存する一連の操作について解説いたします。

■5-1. 採寸条件の決定

採寸を行うときは、最初に部屋の間取と、使用する畳の規格を決定します。

畳の規格は、画面中の【規格】欄の中から決定します。【規格】欄右の▼ボタンをタップすると、欄下に候補のリストが表示されるので、その中から作成したい部屋の規格寸を選択してください。

間取の決定には、規格を決定したとき同様【間取】欄から決定する方法と、画面中程の【<>】ボタンによって決定する方法の二種類があります。

【間取】欄の選択および【<>】ボタンのタップによって、部屋サンプル表示欄に畳の間取図が表示されます。この部屋サンプルは、実際に作成される部屋の間取を表しています。

【<>】ボタンは、【間取】欄右の▼ボタンをタップして表示される間取リストに対して、【<】ボタンが昇順、【>】ボタンが降順に部屋を表示します。

部屋サンプル表示欄の間取図が希望するものと一致したならば、画面左下の【開始】ボタンか、部屋サンプル表示欄をタップしてください。すると、採寸条件決定窓が表示されます。

採寸条件決定窓では、部屋の間取図上の上方の方位或いは目印を記入する【方位】、【建物名】【部屋番号】の入力が可能で、これらは敷詰図に表示されます。

これらの採寸条件の設定が完了した、或いは必要なければ、画面中の【OK】ボタンをタップして開始してください。

図2 採寸番号決定窓

■ 5-2. 採寸値の入力

採寸を開始すると、右図3のような採寸画面が表示されます。

この画面では、採寸値の入力を行います。

画面中央の間取図は、スタイラスをドラッグすることで、その方向にスライドさせることができます。(図4参照)

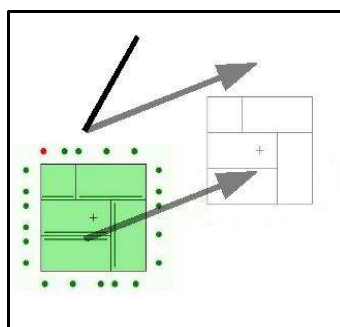


図4 間取図の移動



図3 採寸画面

また、画面上の【拡大縮小】ボタン（虫眼鏡アイコン）をタップすると、画面上にスライドバーが出現します。これを左右にドラッグすると、間取図を拡大縮小することができます。

間取図の外周部に配置されている●マークは、【採寸箇所】です。これをタップすると、赤く色が変わって選択状態となります。

間取図をドラッグして、採寸値を入力したい場所を表示したならば、最初に寸法を入力したい位置にある【採寸箇所】をタップしてください。

なお、初期状態では、間取図の上辺の左端の【採寸箇所】が選択状態となっています。

採寸値は、画面下の【採寸値入力】枠に数値を入力し、その右の【入力】ボタンをタップすることで確定されます。これによって確定された寸法は、【採寸箇所】のマーカが●から寸法に書き換わる事で確認できます。

【採寸値入力】枠への数値の入力には、いくつかの方法があります。

・ PDAの数字キーから入力する

数字キーが存在するスマートフォン等を使用している場合に実行できます。このとき、原則として入力モードは数字に設定して入力を行ってください。

・方向キーの上下で数値を変更する

PDAの方向キーを上下に入力することで、現在入力欄に表示されている数値を増減することができます。

増減の単位は、数値入力パネルが表示されていない時は5厘単位、表示されているときは1厘単位となっています。

寸法を確定すると、【採寸箇所】の選択状態が、一つ右の【採寸地点】に移動します。こうして数値を確定し続けることで、部屋の寸法の全てを確定することができます。(図5参照)

この状態で、【割付実行】ボタンをタップすると、割付を行うことができます。

中置の寸法を入力する場合は5-3へ、

そのまま割付を行うならば5-4に進んでください。

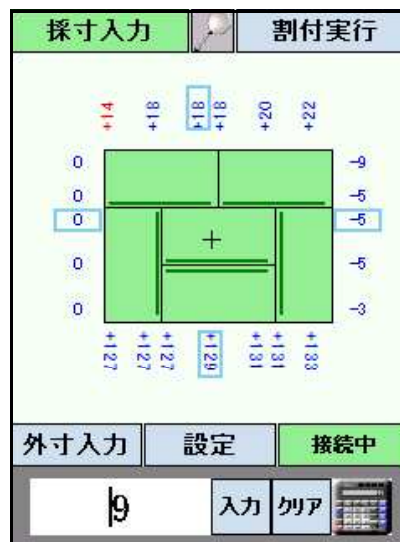


図5 採寸完了

・数値入力パネルを開き、数値を入力する

【電卓ボタン】をタップすることで、【数値入力パネル】が表示されます。

0~9までの【数値ボタン】を押すと、【採寸値入力】枠に数値が書き込まれ、【入力】ボタンのタップで数値が確定されます。

-ボタンをタップすると、現在の【採寸値入力】枠の値の符号を付加、あるいは削除します。

【採寸値入力】枠の数値を削除したいときには、【クリア】ボタンをタップしてください。

【数値入力パネル】を表示しているとき、方向キーの上下を入力すると、【採寸値入力】枠の値を1厘単位で加減します。

【数値入力パネル】を閉じたい場合、【閉じる】ボタンをタップしてください。

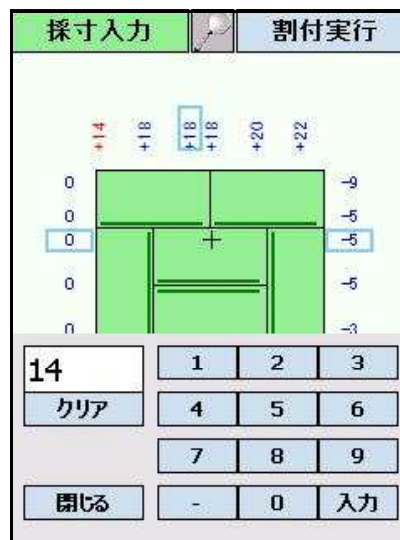


図6 数値入力

・採寸機に無線接続して入力する

採寸機本体と本ソフトウェアを連携させることで、採寸機の出力する計測値を、本ソフトウェアに取り込むことができます。

採寸機との無線接続は、以下の条件を満たしている時に行うことができます。

- ・採寸機本体の電源が入っている
- ・採寸機本体が極端に離れていない
- ・採寸機本体が本ソフトウェアに登録されているものである
- ・「設定」画面にて、「採寸機接続」項目が「●無線」に設定されている
- ・「設定」画面にて、「ポート番号」がPDA毎に規定の値になっている

以上の項目の条件を満たしているとき、採寸画面を表示すると、ソフトウェアは自動的に採寸機への接続を試みます。そして採寸機への接続が完了した場合、画面右の【無線接続】ボタンが【接続中】表示に切り替わります。

この状態では、採寸機本体を対応するルール上で動かすことで、現在の採寸機のカウントしている寸法を取得することができます。

無線デバイスとの接続を解除するには、採寸入力画面で、画面右下の【接続中】ボタンをタップしてください。これにより、ボタンが【再接続】に切り替わり、無線デバイスとの通信が一時的に切断されます。この時は、無線デバイスの寸法がどのように変化しても、本ソフトウェアは数値を画面に反映しません。

接続を解除した、或いは接続に失敗した状況で、無線デバイスへの接続を再開したい場合は、【再接続】ボタンが表示されている状態で、【再接続】ボタンをタップしてください。処理中のアイコンが表示され、本ソフトウェアは採寸機への再接続を試みます。

本ソフトウェアが採寸機への接続に失敗した場合、【無線接続】ボタンは表示が暗転し、文字表示が【無線接続】に切り替わります。この場合、無線デバイスの電源が入っていない、デバイスの設定が行われていない、「設定」のポート番号が間違っているなどの問題が考えられます。

読み取った数値は【入力】ボタンのタッチによって取得されるほか、採寸機の【読み取りボタン】を押下しながらスライドさせることで、レーザー光が採寸機の読み取り位置を通過した瞬間の値を取得し、確定することができます。

【入力】ボタン或いはレーザー光による寸法の取得が行われる事で、現在測定中の測定点は時計回りに次の測定点へと移動します。

これらの読み取り操作を繰り返し、部屋全体の寸法を本ソフトウェアに入力してください。

・基準軸の移動

中寸入力モードのときに外寸をタップすると、タップした外寸と、その反対側の寸法が青い枠に囲まれます。これは割付基準軸といい、この部屋を均等割付する際の基準として扱われます。

基準軸を移動すると、上下左右の外寸同士を結ぶ軸上の中寸が入力可能になります。入力可能になった中寸は●で表示されます。

■ 5-4. 割付の実行

外周の寸法を全て入力すれば、割付を実行できます。割付の実行には、【割付実行】ボタンをタップしてください。

これにより、画面が図8のようになり、割付が行われます。

割付を行うと、各【採寸箇所】に二つの数値が表示されます。これは、内側に青色（選択中は赤色）で表記されているものが割付寸法、外側に灰色で表示されているものが割付前の採寸寸法です。

この二つの寸法を併記する表示モードを「複合画面モード」と呼称し、これは【設定】ボタンによる設定メニューによって表示の是非を設定することができます。

なお、右図では三カ所に寸法の固定が行われているために、均等な割付となっておりません。

もし割付した後で採寸値を修正したいなどの理由で採寸入力をやり直したい場合、【採寸入力】ボタンをタップすることで割付前の状態に戻すことができます。

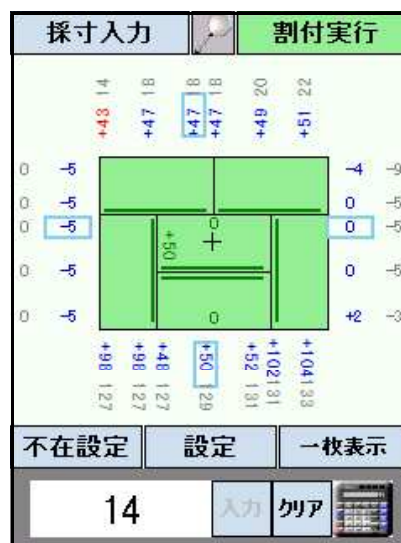


図8 割付結果

■ 5-5. 一枚表示

割付を実行した後、畳の一枚ごとの割付値を参照することができます。これを「一枚表示」と呼称します。

【一枚表示】ボタンをタップすると、画面下部に一枚表示パネルが表示されます。この状態で間取図の畳をタップすると、畳が選択状態となり、その寸法が一枚表示パネルに表示されます。

一枚表示を終了したい場合は、一枚表示パネルをタップすることで一枚表示パネルが閉じられます。

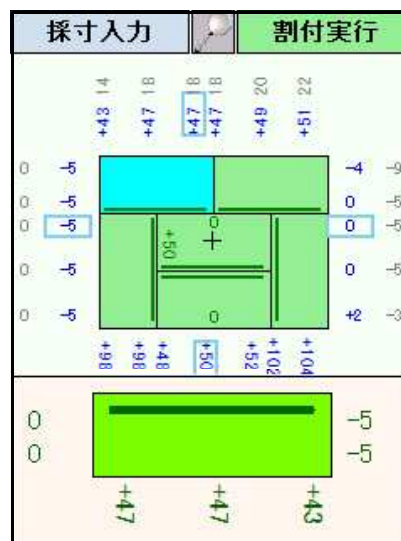


図9 一枚表示

■ 5-6. 不在畳

割付を実行した後、実際には作成しない畳を設定することができます。これを「不在畳」と呼称します。

【不在設定】ボタンをタップすると、不在畳設定モードが設定され、不在畳の設定が可能になります。

この時、間取図の畳をタップすると、畳に図のように×印が書き込まれます。これは、敷詰図を作成するときに反映されます。

不在設定を終了したいときは、【不在設定】ボタンを再度タップしてください。

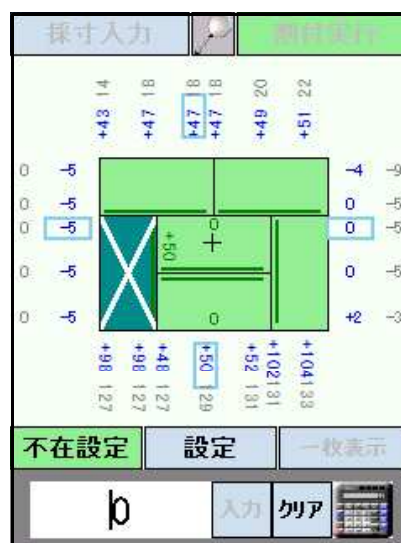


図10 不在畳

■ 5-7. オプションメニュー

採寸画面をタップしたまま動かさないでいると、オプションメニュー画面（図11）が表示されます。

ここでは、以下の操作が可能です。

- ・ 複合画面表示

「7-3」を参照してください。

- ・ 小中表示

「7-1」を参照してください

- ・ 中間値スキップ

「7-2」を参照してください。

- ・ 中寸初期化

入力済みの中寸をすべて未入力の状態にクリアします。

- ・ センタリング

表示中の部屋図を画面中心に移動します。

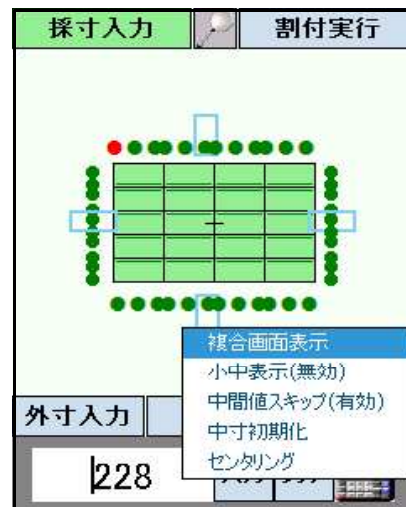


図11 オプションメニュー

■ 5-8. 設定メニュー

【設定】ボタンをタップすると、設定メニューが表示されます。

設定メニューを開くと、設定メニュー画面（図12）が表示され、以下の機能を使用、または設定することができます。

- ・ カメラを起動
- ・ 敷詰図の作成
- ・ メール送信
- ・ 採寸割付の終了

ここで【割付終了】ボタンをタップすることで、現在の部屋の採寸割付を終了し、割付データを保存できます。このとき、後述の「現場写真の撮影」を行った場合、終了時に写真の取り込みが行われます。

詳しい機能については、「7. その他の機能」の項目を参照してください。

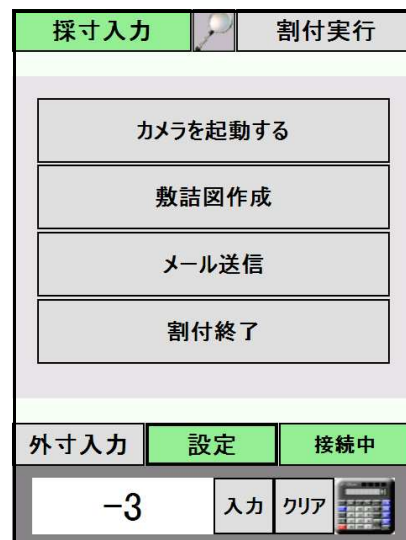


図12 設定メニュー

□ 6. 広間の採寸割付

この項目では、広間の採寸割付を行う場合に、通常の部屋と異なる操作が必要となる項目について解説します。

この項目で解説する以外の項目については、基本的に通常の部屋と同じ操作を行ってください。

■ 6-1. 広間・半畳市松の部屋の作成

間取を決定する際、縦枚数横枚数が異なるものとして、【広間】と【半畳市松】の二種類の部屋を作成することができます。

この場合、間取欄にて上記の部屋を選択すると、広間サイズ指定画面(図13)が表示されます。

【横】と書かれた欄の数字が横軸の枚数、【縦】と書かれた欄の数字が縦軸の枚数を意味しています。

上下ボタンで数値を決定し【決定】ボタンをタップすれば、任意の広さの広間を作成することができます。

【広間】は横敷きの畳を並べる形に、【半畳市松】は半畳畳を市松模様に並べる形となります。



図 1 3 広間サイズ指定

部屋の間取が決定できたならば、通常の採寸開始処理を行ってください。

■ 6-2. 広間の採寸割付 (割付軸の移動)

広間の割付を実行すると、割付軸位置の採寸値を基に、均等割付を行います。

このとき、広間の割付を行う際、割付値を均等に割り付けるための基準となる【採寸箇所】を選択する必要があります。これは初期状態では縦横共に中心に位置する【採寸箇所】が選択されており、これは青い枠で囲まれています。

このボタンをタップすると、割付軸が現在指定している【採寸箇所】と、その対照点の【採寸箇所】へと移動されます。

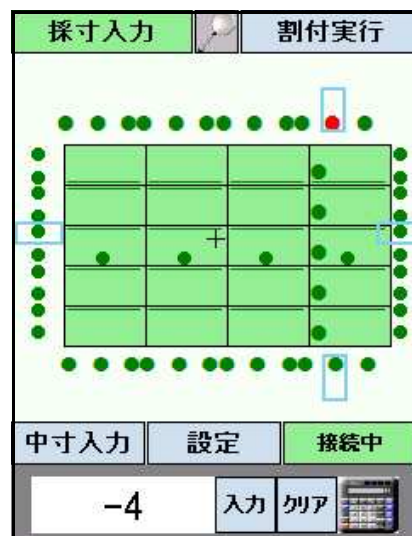


図 1 4 割付軸移動

■ 6-3. 広間の中寸入力

広間を採寸している場合、中寸のルールが通常と異なるものになります。

広間の採寸を行っている際に、中寸入力モードに切り替えると、間取り図は図15のように切り替わります。

広間の中寸は、割付基準軸が通る畳全ての入力が可能です。たとえば右図15の場合、横軸について三カ所、縦軸についても三カ所の入力欄が表示されていますが、これら全てがあらかじめ中寸の入力が可能です。

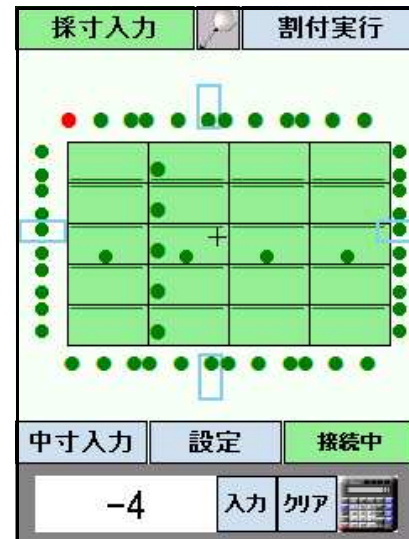


図15 広間中寸入力

□ 7. その他の機能

この項目では、本ソフトウェアの採寸割付以外の付加機能について解説します。

■ 7-1. 小中の表示の切り替え

採寸割付画面において、「オプションメニュー」上の【小中表示切替】ボタンをタップすることで、小中表示の有無を設定できます。

これにより、本来普通量について【採寸箇所】が三カ所ずつ入力できるものが、五カ所ずつ入力できるようになります。(半量の場合二カ所入力が三カ所入力となる)

初期状態では小中は非表示状態で、ボタンタップで表示状態、更にもう一度タップすることで非表示状態にすることができます。

ボタンには、現在の小中表示の是非が【(有効/無効)】の形で表示されています。

なお、非表示状態の小中の値は、その前後の【採寸箇所】の平均値が自動的に割り振られます。これは、「小中表示状態で小中採寸箇所に数値を入力し、小中を非表示にしてから割付を行った」場合も、その時点での入力値に関わらず平均値が割り当てられる事に注意してください。

■ 7-2. 中間値のスキップ設定の切り替え

採寸割付画面において、「オプションメニュー」上の【中間値スキップ】ボタンをタップすることで、中間値スキップの是非を設定できます。

ボタンには、現在のスキップの是非が【(有効/無効)】の形で表示されています。これは、ボタンを押す毎に有効無効が切り替わります。

中間値スキップを有効にすると、量同士の継ぎ目(出合)や小中表示時の小中値など、同値や通常前後の平均値が与えられる寸法について、入力を自動的にスキップするようになります。この場合、出合の寸法はその直前の【採寸箇所】の値がそのまま、小中はそれを挟む【採寸箇所】の平均値が割り当てられます。

なお、スキップした値を変更したい場合は、直接間取図の変更したい【採寸箇所】をタップして選択してください。

■ 7-3. 複合画面モードの表示の切り替え

採寸割付画面において、「オプションメニュー」上の【複合表示】ボタンをタップすることで、複合画面モードの有効/無効を切り替えることができます。

複合画面モードは、割付を実行すると自動的に有効になりますが、必要ない場合には、設定によって表示を消すことができます。

ボタンには、現在の複合表示の是非が【(有効/無効)】の形で表示されています。これは、ボタンを押す毎に有効無効が切り替わります。

■ 7-4. 現場写真の撮影

採寸割付画面において、「設定メニュー」上の【カメラを起動】ボタンをタップすることで、PDAに搭載されているカメラを起動し、現場の写真を撮影することができます。

【カメラを起動】ボタンからカメラを起動すると、その際に撮影した写真を、割付データを保存する際に、割付データと関連づけてメモリーカードに転写することができます。

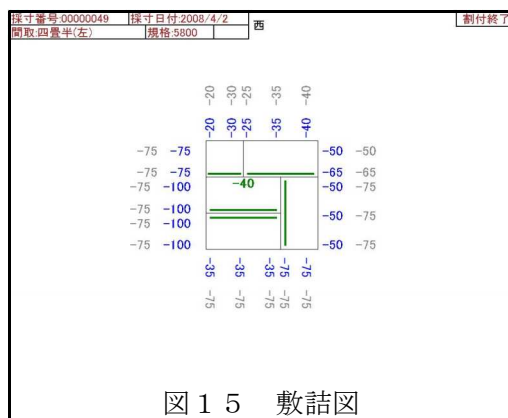
この機能はカメラを搭載していないPDAでは使用できません。

また、カメラの撮影に関しては、それぞれのPDAの説明書を参照してください。

■ 7-5. 敷詰図の作成

採寸割付画面において、「設定メニュー」上の【敷詰図作成】ボタンをタップすることで、現在割付中の部屋の敷詰図を作成することができます。

作成される敷詰図は、下図のような形になります。



ここで作成される敷詰図は、【[採寸番号]-P0. jpg】というファイル名で、【¥SSTDBS】フォルダに作成されます。

この敷詰図はPCから印刷が可能な他、保存先をメモリーカードに指定していれば、コンビニエンスストアなどの写真印刷機で印刷することが可能です。

■ 7-6. メールの送信

採寸割付画面において、「設定メニュー」上の【メール送信】ボタンをタップすることで、現在割付中の部屋のデータをメールに添付して送信することができます。

この機能は、Eメールの送信に対応しているスマートフォントタイプのPDAでしか使用することはできません。

また、Gメール等の電話番号に対して送信を行うSMSメールでも使用することはできません。

詳しくは、別紙のメーカー対応表を参照してください。



図 1 6 メール送信画面

以下で、この画面の見方と使用方法を説明します。

・送信元アカウント

PDAに指定されている、メールを発行するアカウントです。

この項目は設定画面の「メール画面」で選択されているもので、予めPDAのOutlookメールソフトで設定しておく必要があります。

この項目が指定されていない場合、メールの送信はできません。一度部屋のデータを保存し、設定画面に戻って指定し直してください。

・送信先メールアドレス

メールを送信する先のメールアドレスです。

欄の右にある▼マークをタップすることで、複数の候補を選択することができます。

これらのメールアドレスの候補は、設定画面の「メール画面」で登録しておくことができるほか、この画面で直接入力することも可能です。

ここで指定したメールアドレスにメールが送信され、PCなどで受信し、採寸データをオプションツールで利用したり、敷詰図を印刷したりすることができます。

・採寸ファイルを添付

採寸ファイルをメールに添付するかどうかを決定します。

ここにチェックが入っていると、現在作業中（あるいは呼び出し元の）採寸データファイルを、作成するメールに添付するようになります。

採寸ファイルを添付したくない場合は、チェックを外してください。

・ 敷詰図を添付

敷詰図をメールに添付するかどうかを決定します。

ここにチェックが入っていると、現在作業中（あるいは呼び出し元の）敷詰図を、作成するメールに添付するようになります。

敷詰図がまだ作成されていない場合、この場で敷詰図を作成することができます。

「敷詰図を作成しますか？」という確認メッセージが表示されるので、OKをタップすると、採寸画面から「敷詰図を作成」をタップした場合と同じ画面が表示され、敷詰図が作成されます。

敷詰図を添付したくない場合は、チェックを外してください。

・ 参照

採寸ファイルや敷詰図以外のファイル（現場写真など）を添付したい場合にタップすることで、添付ファイルを追加することができます。

追加したファイルは画面下の添付ファイルリストに追加されます。

・ 作成

「作成」ボタンをタップすることで、メールが作成されます。作成されたメールはMicrosoft Outlookの、選択中のアカウントのメールフォルダに格納され、PDAの設定次第では自動的に送信か、あるいは手動で「送受信」を命令することで送信が行われます。

なお、メール送信は電話回線を使用するため、通信料がかかります。

特に敷詰図や写真は画像であるため、メールに添付すると容量が増大し、通信費用がより多くかかってしまいます。ご注意ください。

・ キャンセル

メール作成を中断して、元の画面に戻ります。

□ 8. 採寸データの呼出・参照

この項目では、過去に作成された採寸データの呼出と参照について解説します。

■ 8-1. 採寸データの呼出

【メインメニュー画面】から過去の採寸データを呼び出す事が可能です。

【採寸番号入力欄】の右にある【読込ボタン】をタップすると、現在指定している保存先に格納された採寸データファイルのリストが表示されます。

このリストから、呼出を行いたい採寸番号を選択し、画面をタップすることで、過去のデータを呼び出すことができます。

採寸データを選択すると、そのデータの内容について簡単な確認が行われます。そのデータで正しければOKを、正しくなければキャンセルをタップしてください。

これにより、保存した状態の採寸データを作業可能な状態に復帰することができます。

■ 8-2. 採寸データの参照

【設定画面】から、過去の採寸データを参照することができます。

【メインメニュー画面】の下部、【設定】ボタンをタップすると、【設定画面】が表示されます。

この【設定画面】下部タブの【履歴】項目を選択すると、右図の【履歴参照画面】が表示されます。

画面上部で採寸番号ごとに採寸データをリストアップしているパネルを【履歴リスト】と呼称します。

リストの項目は、以下の五種類があります。

- ・採寸番号 採寸データの通し番号です。
- ・敷図 敷詰図の有無を示します。存在する場合1が与えられます。
- ・写真 現場写真の有無を示します。存在する場合はその枚数が与えられます。
- ・間取 部屋の間取りを示します。
- ・日付 採寸が行われた日付を示します。

採寸番号	敷	写	間取	日
▶ 00000013	1	0	六畳	3/11

数詰図表示 写真表示 0 ▲ ▼

選択削除 メール送信

設定 履歴 無線 メール

戻る A

図 1 6 履歴参照画面

この【履歴参照画面】では、以下の操作が可能です。

- ・「敷詰図の参照」
- ・「現場写真の参照」
- ・「割付データの参照」
- ・「採寸データの削除」
- ・「メール送信」

この項目では、「メール送信」以外の上記の機能について解説します。

「メール送信」については、「7. その他の機能」の「メール送信」の項目を参照してください。

■ 8 - 3. 敷詰図の参照

採寸時に作成した敷詰図を参照することができます。

【履歴リスト】をタップして選択した採寸データに敷詰図がある場合、画面下の【敷詰図表示】ボタンが使用可能となります。

【敷詰図表示】ボタンをタップすると、敷詰図が表示されます。これを閉じる場合は、画面右上の【ok】ボタンをタップしてください。

なお、選択した部屋に敷詰図が存在しない場合、このボタンは【敷詰図作成】と表示を変更し、タップされることで敷詰図を作成し、表示します。

■ 8 - 4. 現場写真の参照

敷詰図と同様の要領で、採寸中に撮影した現場写真を参照することができます。

現場写真を参照する場合、画面下の【写真表示】ボタンをタップしてください。

このとき、ボタン右の数値ボックスにある数字が、その採寸データに関連づけられた写真の通し番号に対応しています。

【履歴リスト】に表示されている【写真】の項目の数が、数値ボックスに与え得る数値の最大値となっています。

数値ボックスに与えられている番号に応じて、順繰りに現場写真を表示することができます。

表示した現場写真を閉じる場合は、画面右上の【ok】ボタンをタップしてください。

■ 8-5. 割付データの参照

【履歴リスト】を二回連続でタップする（これをダブルタップと呼称します）と、割付値参照画面（図17）が表示されます。

この画面では、採寸データの間取図を下段に、選択中の畳の寸法を上段に表示しています。

下段の間取図をタップすると、タップした位置の畳が選択され、その割付寸法が上段の畳に表示されます。

実際に作成する寸法を参照したい場合にご利用ください。

この画面を終了する場合、画面左下の【閉じる】ボタンをタップしてください。



図 1 7 割付値参照画面

■ 8-6. 採寸データの削除

【履歴リスト】をタップして部屋を選択した状態で、画面下の【選択削除】ボタンをタップすると、選択中の採寸データを削除することができます。

ここで削除した採寸データは、いかなる方法を以てしても復旧はできません。削除を行う際には注意して行ってください。

□9. 環境設定

【メインメニュー画面】から【設定】ボタンをタップすると、【設定画面】(図18)が表示されます。

この【設定画面】では先述の【採寸データの参照】の他に、本ソフトウェアを使用する上で必要な環境設定を行うことができます。

この画面では、以下の設定を行うことができます。

The screenshot shows the Settings screen with the following elements:

- 保存位置**: A dropdown menu currently showing "¥My Documents".
- 採寸番号カウンタ**: A text input field containing "00000015" and a "リセット" (Reset) button to its right.
- 0/5補正**: A checked checkbox.
- 寸法横列縦表示**: A checked checkbox.
- エンコーダ定数**: A text input field containing "3.125" and an "適用" (Apply) button to its right.
- 自動電源オフ**: A text input field containing "10" followed by "分" (minutes) and an "適用" (Apply) button to its right.
- 採寸機接続**: Radio buttons for "有線" (Wired) and "無線" (Wireless), with "無線" selected.
- Bottom navigation bar**: Buttons for "設定" (Settings), "履歴" (History), "無線" (Wireless), and "メール" (Email). Below these are "戻る" (Back) and "A" buttons.

図 1 8 設定画面

■ 9-1. 保存位置

本ソフトウェアの採寸データおよび画像データ等を保存する位置を決定します。

原則としてSDメモ리카ードのフォルダを使用しますが、このフォルダの名称はPDA毎に異なります。

保存先の選択には、【保存位置】欄の右の▼をタップして候補リストを表示し、【¥SD CARD】等のメモ리카ードのアドレスを探してタップすることで決定します。

適切なメモ리카ードを指定できた場合、初回起動の際には「¥SSDTBSフォルダを作成しますか?」と確認メッセージが表示されるので、【Ok】をタップしてください。

選択したデバイスが存在しない場合、「本機には指定したフォルダが存在しません」と警告メッセージが表示されます。これはメモ리카ードが刺さっていない、あるいは故障している可能性があります。この場合、【¥My Documents】フォルダを指定して、PDA本体にデータを保存してください。

■ 9-2. 採寸番号カウンタ

【メインメニュー画面】において採寸を開始する際、【採寸番号】には八桁の数字が自動的に割り振られますが、この項目ではその採寸番号カウンタを確認および変更、あるいはリセットする事ができます。

【採寸番号カウンタ】欄右の【リセット】ボタンをタップすると、【採寸番号カウンタ】に表示される数値が「00000000」に変更されます。

本ソフトウェアでは、採寸データを保存するときに、同じ採寸番号のデータが既に存在していても、それを無視して保存を行います。

特別な事情がなければ、原則としてリセットは行わないでください。

■ 9-3. 0/5補正

この項目がチェックされていると、割付を行う際、その割付値の下一桁が可能な限り0あるいは5になるように計算結果を調整します。

たとえば、横軸に三枚の普通畳が横並びに存在し、左右の偏差の合計が-100厘だったとすれば、通常ならば各畳の床長の割付値は-33, -33, -34になりますが、0/5補正が有効である場合、-30, -35, -35という形で割付が行われます。

■ 9-4. 寸法横列縦表示

この項目がチェックされていると、間取図の上面と下面の【採寸箇所】の数値が、縦向きに表示されるようになります。

初期状態では縦向き表示が設定されています。

■ 9-5. エンコーダ定数

本ソフトウェアに接続される採寸機本体の、寸法を解釈する際の比率を設定します。方向キーの上下で、0.005単位で調節できます。

この値は接続される採寸機本体の読取装置によって異なる値を設定する必要があります。

現在対応している採寸機と、それに対応するエンコーダ定数は以下を参照してください。

- ・ピニオンギア型 3.215
- ・スプロケット型 3.125

採寸機本体側の数値表示が不正な値を取る場合は、本項目を適切な値に書き換えた後に、後述の【無線】項目から採寸機と接続可能な状態にした上で、エンコーダ定数項目の右にある【適用】ボタンをタップしてください。採寸機本体のエンコーダ定数が変更され、現在のエンコーダ定数が採寸機本体のLEDカウンタに表示されます。

この値は、一度設定したならば変更する必要はありません。

■ 9-6. 自動電源オフ

本ソフトウェアに接続される採寸機の、自動停止するまでの時間を設定します。

採寸機本体を動かさず、本ソフトウェアからの連携も行われない時、ここで設定された時間が経過すると、採寸機本体の電源が自動的にOFFになります。

継続して操作を行っている場合、電源のOFFは行われません。

設定は方向キーの上下を用い、1分単位で変更が可能です。

決定した値は、項目右の【適用】ボタンをタップして、採寸機に書き込みを行わなければ反映されません。このとき、採寸機本体のLEDカウンタには与えた時間を30倍した値が表示されます。

■ 9-7. 採寸機接続

本ソフトウェアで接続する採寸機の接続方式を決定します。有線と無線が選択できますが、ここでは「無線」を選択してください。

■ 9-8. 無線設定 (iPaq等)

採寸機本体の無線通信機を検索し、登録することで、採寸画面で検寸器の測定寸法を取り込む事ができるようになります。

この画面では、無線通信機の検索・設定・削除を行うことができます。

この項目では、採寸機に標準添付のhp iPaq112、及びその互換機における設定方法を解説します。

・デバイスの検索

Bluetooth無線対応デバイスを検索し、「登録されている無線デバイス」欄に列挙します。

【検索】ボタンをタップし、しばらく待った後に表示されたデバイス名を参照し、採寸機本体に付記された無線デバイスIDと一致する名前のデバイス名をタップしてください。

無線デバイスIDと一致するデバイスが見つからない場合、対象の採寸機本体に電源が入っていない可能性があります。更に検索をやり直しても目的のデバイス名が表示されない場合、PDA本体のリセットを試みてください。



図 1 9 無線設定画面 (iPaq)

・ デバイスの設定

検索した無線デバイスをタップして選択した後、【設定】ボタンをタップしてください。

この操作により、本ソフトウェアへの無線デバイスの登録が行われます。

・ デバイスの削除

選択中のデバイス名をリストから削除することができます。

このボタンでデバイスを削除した後、必ず【設定】ボタンで使用するデバイス名を改めて設定し直すようにしてください。この操作を行わないと、デバイスの設定が不正な値のままになる可能性があります。

■ 9-9. 無線設定(スマートフォン等)

ここではiPaqシリーズ以外のPDAを便宜上スマートフォンと呼称します。

1. 無線デバイスの検索

スマートフォンでは、iPaqシリーズに対し、無線デバイスの登録方法が異なります。

スマートフォンで本ソフトウェアと採寸機を接続する場合、設定画面の無線タブを開くと、通常の無線設定画面に代わって、無線設定画面(SP) (図20)が表示されます。



図 20 無線設定画面 (SP)

画面上の【Bluetoothデバイスを検索】ボタンをタップすることで、Bluetooth設定画面(SP) (図21)が表示されます。

新規に無線デバイスの接続を追加する場合、画面中央のデバイスリストから【新しいデバイスの追加】をタッチしてください。すると、デバイス検索画面(図22)が表示され、現在スマートフォンの付近で検出可能なBluetooth無線デバイスを列挙します。

この列挙されたデバイス名から、採寸機本体に付記された無線デバイスIDと一致する名前のデバイス名をタップし、画面右下の【次へ】をタップしてください。

注) 無線デバイスIDと一致するデバイスが見つからない場合、対象の採寸機本体に電源が入っていない可能性があります。

更に検索をやり直しても目的のデバイス名が表示されない場合、PDA本体のリセットを試みてください。

2. パスコードの入力

デバイス名を選んで【次へ】をタップすると、パスコードの入力画面(図23)が表示されます。

この画面では、無線デバイスが相互に通信を行うためのパスコードを入力する必要があります。

原則、ここではパスコードは何も入力せず、【次へ】ボタンをタップして次の画面に進んでください。

すると、画面下にデバイス追加確認画面(図24)が表示されるので、【はい】ボタンをタップしてください。

この操作を行うと、採寸機の無線デバイスがスマートフォンに接続を試み、パスコードの入力を求める画面が表示されますが、今回は画面左下の【キャンセル】をタップし、パスコード入力画面を終了させてください。

この操作により、画面に「[対象デバイス]を登録しました」というメッセージが表示されるので、画面左下の【完了】をタップして、登録作業を終了してください。

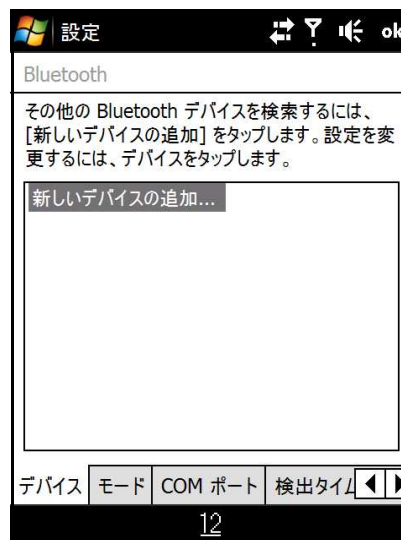


図 21 Bluetooth 設定画面 (SP)

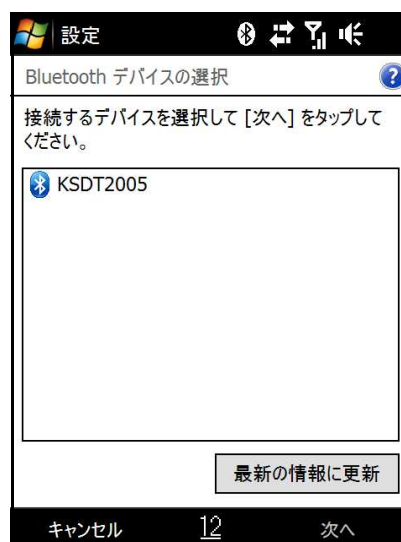


図 22 デバイス検索画面 (SP)

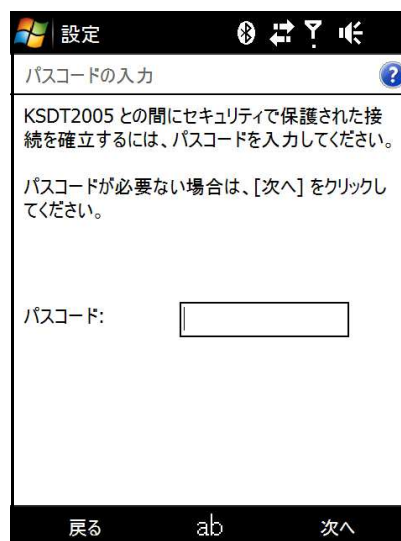


図 23 パスコード入力画面 (SP)

3. COMポート設定

登録処理が終了すると「Bluetooth設定画面 (SP) (図22)」画面が表示されるので、この画面の画面下段タブ「COMポート」をタップしてください。

この操作により、COMポート設定画面 (図25) が表示されます。

この画面では、登録した無線デバイスが通信を行うポートの割り当てを行います。

画面中央のリストから、【新しい発信ポート】をタップしてください。この操作により、デバイスの追加画面 (図26) が表示されます。

この画面中央のリストに表示される、現在登録されているデバイスのリストから、無線デバイスIDを選択し、【次へ】をタップしてください。

この操作により、COMポート設定画面 (図27) が表示されます

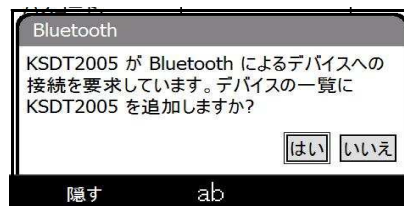


図 24 デバイス追加確認画面 (SP)

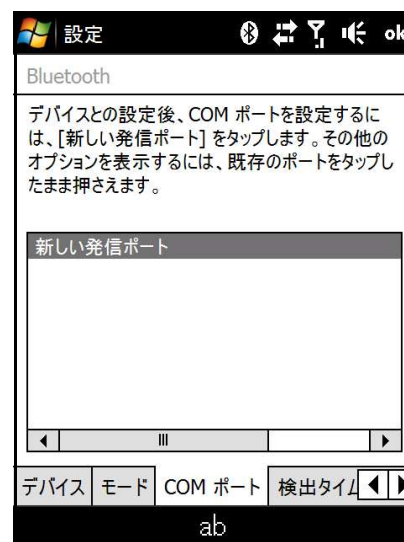


図 25 COM ポート設定画面 (SP)

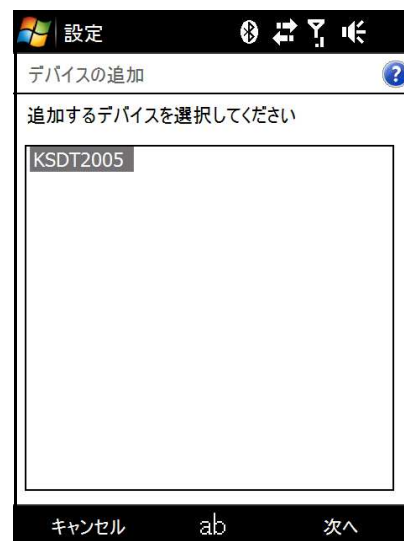


図 26 デバイスの追加画面 (SP)

この画面では、無線デバイスIDに割り当てられるCOMポートの設定を変更します。

画面上部のポートの項目の右にある▼マークをタッチし、リストに表示されるCOMポートを選択してください。ここで選択する項目は、一般的にはCOM6を選択するようにしてください。

また、ポート項目の下にある「セキュリティで保護された接続」項目は、タップして必ずチェックを外しておいてください。

以上の操作が終了したならば、【完了】をタッチしてください。

以上の操作で、無線デバイスの設定は完了します。



図 27 COM ポート設定画面(SP)

■ 9-10. 無線機のポート設定

設定画面の無線タブ下段で、無線機が使用する通信ポートを指定することができます。

iPaqシリーズの場合は、ここに割り当てられる数値は以下の表に従います。

PDA名	ポート番号
hp iPaq hx2000シリーズ	8
hp iPaq 112シリーズ	6

対象がスマートフォンである場合、ここで設定する通信ポート番号は、「9-9. 無線設定(スマートフォン等)」の「COMポート設定」で設定した値を割り当てます。

一般的には、ポート6を設定してください。

□ 10. 困ったときは

ここでは、本ソフトウェアをご利用の際に発生し得る様々な問題について、解決する方法を解説しています。

この記述にない問題が生じた場合は、お手数ですが以下にまでご連絡お願い致します。

(広島) 082-273-1290

共和システム株式会社 システム開発部

①知らない内に電源が切れてしまった

PDAの仕様として、一定時間操作を行わない場合、電力消費を抑えるために、自動的に機械の電源をオフにするようになっています。

これが作業上支障があると思われた場合、【スタート】メニューから【設定】を選択し、【電源の管理】の項目を開いて【省電力モードを切る】などの設定を行ってください。

この操作は、ご利用のPDAの機種によって多少異なるため、お手元のPDA自体の取扱説明書も併せてご参照ください。

②メニューから【携帯寸割】を呼んでも寸割画面が表示されない

PDAが他の処理（住所録の編集など）を行っていて、お客様の操作を受け付けなくなる場合があります。

この場合はしばらく（1～2分ほど）お待ちいただいた後、もう一度【メニュー】から携帯寸割を呼び出してください。

それでも正常に動作しない場合は、お客様ご利用のPDAの取扱説明書に従い、リセットを行ってください。

□ 1 1. 付録

■ 製品構成

製品提供用フラッシュメモリカード× 1
取扱説明書（本書）× 1
Windows Mobile 5互換PDA端末 ※ 1

※ 1 PDA端末は弊社提供のものか、弊社指定の物を別途購入した上でご利用願います。

■ 仕様

・ ソフトウェア部

Windows Mobile 5互換ソフトウェア 携帯寸割Ver1.0

必要ハードウェア：Windows Mobile 5互換PDA端末

（CPU:ARM互換のみ対応）

必要メモリ容量：約3MB

（うち、本体メモリ領域に0.3MB。

ソフトウェア添付用メモリカードに3MB）

■ お困りの時は

PDA端末のリセットボタンをタップし、ソフトウェアを再起動しても状況が改善しない場合は、以下の番号までご連絡下さい。

（広島）082-273-1290

共和システム株式会社 システム開発部